

【研究概要】

Stage IV 大腸癌の治療における課題は、肝転移以外の切除不能遠隔転移により、切除の適応とならないとされる患者に対して、予後改善のために新しい治療戦略の導入が必要である。同時性の肝・肺転移など長期的な遠隔転移制御が期待できる患者において、肺転移未切除であっても肝転移や原発巣など生命予後を決めうる病巣の切除が予後改善に寄与する可能性があり、本研究では肺転移を伴う Stage IV 大腸癌患者において、肺転移巣の切除適応に関わらず、切除可能な原発巣、肝転移を除去する治療方針の安全性と有効性を検討する